



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ジャージー牛の故郷
Author(s)	山口, 哲夫
Citation	季刊農業経営研究, 1, 80-82
Issue Date	1955-12-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36224
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_80-82.pdf



ジャージー 牛の故郷

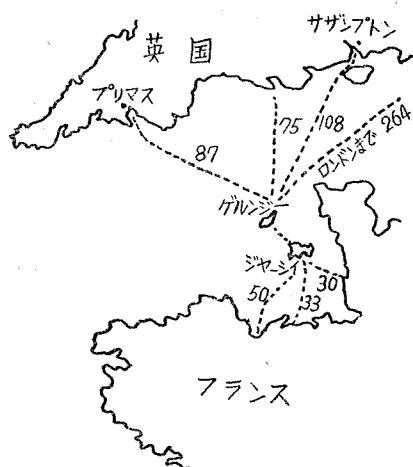
—英国ジャージー島のことなど—

山口 哲夫

近年ジャージー種の牛がわが国の集約酪農地帯形成のため多数輸入されている。バンビにも似た可愛いジャージーの小牛、脂肪のゆたかなやまぶき色の乳——そうしたものをわが国酪農業の一方における中核としようというのが、こんにちの酪農政策の一つの課題のようである。

英国とフランスのあいだにあるそのはば百マイルほどの英仏海峡、ジャージー島はその中間フランスよりの方にある。英国本土からは80マイル程度だから、数時間の航海で行くことが出来よう。このジャージー島は東西約10マイル、南北約5マイルの小島。これが最近わが国でも注目されているジャージー種乳牛の原産地である。ジャージー島の北10マイル、これよりひとまわりほど小型のゲルンジー島、これがまた同名の牛ゲルンジー種の原産地である。ちかごろこのような名牛も、商業的にはこうした島よりも、むしろ英本土のサレイ、グロスターシャー、サセックス等の諸州に、またその他の諸国におかぶをうばわれたかたちである。だが、こうした名牛がどのような故郷をもち、現在そこがどんな状況にあるかは、いちおう関心のもたれることであろう。ジャージー、ゲルンジーのふたつの島のことを書いてみようという気になつたのも、多分そうした感傷的な気持と好奇心とが手伝っている。

いまでこそ大平、大西両洋が世界交通の要路となつているが、そのむかしにはこの英仏海峡などがそうした中心に相当していたことであろう。したがって、英国と大陸との連絡に位置していたこれら諸島がひらけたのはずいぶんむか



数字はマイル数

しのことであろう。

1066年フランス——正確に言うと当時はノルマンディー——のギョームの英国征服、それは有名なノルマン・コンクエストと言われるもので、これが現在の英国社会のひとつの出発点と見られている。ジャージー、ゲルンジー両島には、既にこれより1世紀もまえに入植していたと言われる。この頃、修道僧などが英、仏から持つて来た牛が、いく世紀もの間にこうした孤島という地理的事情にも恵まれて純系として確立され、ジャージー牛となり、ゲルンジー牛となつたもののようである。だが、産業としての牛の飼育は、ノルマンの征服後数世紀で一応とだえたらしい。

これにかわつてこのふたつの島の産業となつたものは、あみもので、17世紀の英国のジェームス二世は年々ジャージー島には50トン、ゲルンジー島には25トンの羊毛を割当てて、これを上衣に編んでフランスなどに輸出させたものらしい。ジャージー、ゲルンジーは、当時は、こんにちのように牛の名前ではなく、そうした上衣の名前であつた。

その後、両島の人たちは、それでは満足出来なくなつたのか、英仏海峡のひんぱんな船のゆきかいにしげきされたのか、海にのり出すこととなつたのだつた。もつとも、英国の人たちは——まして、こうした島々の人たちは、生まれ

ながらの海洋民族なのである。

こうした場合でも、ジャージー島とゲルンジー島とでは、かなり行きかたがちがつている。がんらい、ジャージー島の方が自然的に恵まれているせいか、ジャージーの人たちは温和で消極的、ゲルンジーの人たちはぬけ目なく積極的。この場合、ジャージーの人たちは、漁夫となつてニューファウンドランド——それは1583年に建設された英国最初の植民地だつたが——沿岸のタラ漁業をやつた。これに対し、ゲルンジーの人たちは、海賊や密輸を業とした。当時英国は言わば海賊官許の国だつたのだ。今井登志喜先生の英国史によれば、有名なフランシス・ドレークなども1572年海賊を目的として渡米し、西印度の諸港に侵入して船をうばい、町を焼きはらい、ペルー、メキシコを荒して金銀を強奪してパナマから引返し、女王、大臣にその利益をわかち、サーの称号を許されたということである。ゲルンジーの密輸業も地方規則により認められ、17世紀なかばから19世紀はじめまでの間には財政上の理由から英本国枢密院の支持さえ受けたという。英仏海峡の中間にあり良港を扼するゲルンジー島は、海賊業にはくつきようのねじろだつたと察せられる。

それから幾変遷、両島では帆船の造船業、花崗岩の採石業もさかんにおこなわれたのち、現在のような農業段階に入つたのであつた。

両島の農産は、牛のほかは、馬鈴薯、トマト、花などであるが、そのやりかたはかなりちがつている。

まず、ジャージー島の農業から見て行こう。1952年現在で同島の牛の数は約5千6百頭、そのうち千頭を輸出しており、別に年間千2百頭程度の仔牛を生産している。これが、1962年には7千2百頭、輸出千2百頭、生産千4百頭になると推定されている。農場の平均面積は、1939年の13エーカーに対し1952年には9エーカーと減少しており、面積階層的に見ても、最下層の1ないし10パーセントに属するものが1939年に総農場数の33パーセントあつたのに対し、1952年には41パーセントと増加し、経営零細化をものがたつている。パーセント Vergee とは、この海峡諸島特有の面積単位で9分の4

エーカー（エーカーは4反24歩）にあたる。

植産としては、馬鈴薯、トマトがおもなもので、サー・ウォルター・ロレイ——彼も言わば海賊の一党で馬鈴薯とタバコをはじめてヨーロッパに持つて来た——が、この島に持つて来て以来栽培されていると伝えられる馬鈴薯の方がトマト栽培よりは歴史的には古い。はしり馬鈴薯——トマトという経営様式がおこなわれているのは、ここ40年来のことである。農繁期には労力不足となり、毎年春になると数千人の労働者がフランスから渡来し、3万2千トンにのぼる馬鈴薯の収穫をおこない、またトマトの収穫期には数百の女子労働者がウェールズから流入して3万トンを超えるトマトの等級わけと包装を手伝っている。

統計によれば、トラクターは、1939年の372台に対し1952年には1,011台と増加し、これに対し馬は39年の1,258頭から52年には837頭と減少している。だが、馬鈴薯掘り取り機は39年の312台に対し52年には309台とむしろ減少を示している。これは、掘り取り機1台の能率が増したためかも知れないが、はしり馬鈴薯の採取の機械化は困難な点があるのかも知れぬ

だが、また、統計によれば、ジャージーの農業は1949年ないし50年が転換の年で、この頃から一方において機械による労働者の排除、輸出量の増加、他方において兼業的零細農家の増加等がかなりはつきり見られ、こんごどのような方向に農業経営が進み、また島の経済全体がどのように進展するか注目されよう。

次はゲルンジー島の農業である。ここでは花や梨や葡萄が昔から作られていたが、その歴史はそれほど古いものではない。1870年代になつて、ある園芸家が始めて南側をガラスでかこつて葡萄を作る試験に成功したのだつたが、現在ここに世界で一番長いガラス室があり、そこでとれた葡萄は年に3万房にのぼっている。トマトは、はじめ有毒なものと信じられてなかなか売れくちがなかつたが、こんにちでは葡萄にかわつてトマトのガラス室栽培の方が発展し、年に5万トンのトマトを輸出している。このトマトは、ジャージーとちがつてガラス室を利用し、3月末にはしりのものを摘果したり、クリ

スマス後から1,2月頃に摘果したりして、英国その他の市場に出している。トマトに次ぐ農業は花で、戦前は年に4千5百トンを輸出していた。花の生産は、第二次大戦で独逸の占領下にあつたとき食料生産に圧迫され、現在でも、まだ戦前水準には達していないが漸次復興しているらしい。花のおもなものは、まず早春に出荷される水仙、チューリップ及びイチハツ、こうしたものはガラス室で栽培されている。それからアネモネ、菊白星海芋、ネリン——これはゲルンジー・リリーとよばれている。最後にクリスマスアステでまた水仙。

だいたい、こうしたところが名牛の原産地ジャージー島とゲルンジー島のちかごろのありさまである。現在は、両島とも英国では屈指の観光地となっており、ゲルンジーだけでも夏期4カ月には同島の人口4万5千の倍以上にあたる10万人ほどの訪客があるとのことである。最

近問題になつていることは、1年のうちで最も牛乳需要の多いこの夏期の生産量を増大すること、当局は価格政策により冬期に産乳を集中することによつて、これに対処しようとしている。それでも、大勢としては消流対策にちからをそそぐ必要があり、脂肪のゆたかなやまぶき色の乳ばかりでなく、ミルクセーキにしたり、コーヒー、チョコレート、いちご、ラズベリー、パイナップル、パタスコッチなどの香味をつけた牛乳を売り出すなどかなり苦心しているようである。

ともあれ、ノルマン・コンケスト以来、幾多被征服の苦杯をなめ、他方、海賊にまで進出？したそうした島の人たちも、現在では同島産の牛のように温順に平和に、花作りや、馬鈴薯やトマト作りに、また牛乳生産にいそしんでいるのである。(1955・1・3)



シバウラ AT-5型 トラクター

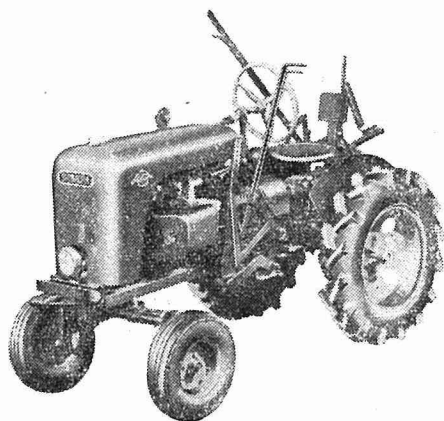
最新型 国産農営用の No. 1

AT-5型は12馬力の石油エンジン搭載のトラクターで 最少限の経費で凡ゆる農耕作業はもとより特に管理作業に対しても優秀性能を発揮する文字通りの万能車です

北海道・青森総代理店

エルム精機工業株式会社

本社 札幌市菊水西町 電話①528番
出張所 弘前市北瓦町リンゴ會館 電話 2071番



北海道向AT-5型 415,000円